

乳牛の見方（下）

岡山県酪農連合会 松田 嘉三次

現在乳牛を飼われている方も、これから買われる方もぜひおよみ下さい

胸 巾広く深く、肩からの移行よろしく、肩後及び肘後のよく充実して、胸底の広いものがよい。胸には心臓肺臓等重要な臓器を収めているから、広い深い胸には強大な心臓、肺臓を入れることが出来るから、生活力強く従って泌乳能力も高い。

肋腹 肋骨は平らで、巾広くよく開張し肋骨間隔も広く、殊に季肋骨とその前の肋骨間は、手指が3、4本入る程間隔のあるものがよい。腹は巾広く深く豊で、しかもよく緊っているものがよい。肋骨の中には、肝臓、胃、腸等重要な消化器が、内蔵されているから、容積の大きいものが、大きい丈夫な内臓を入れることが出来る。しかし大きくても垂腹で緊りのないものは、内蔵の活動が不十分である。巻腹で小さいものは、内臓も小さく、又弱い、消化器の大きく、活力があることは、飼料の消化力強く、従って泌乳能力が高い。

膝 この頃で膝は主として下膝部が問題となる。上膝部は肋膜と併せて見ることにする。膝は腰角から十分の深さがあり、肋腹とともに豊祐なものが良い。膝部の下辺をつまんで見て、脂肪が入っていたり、皮下組織の厚いものは、肉牛としては好ましいが、乳用牛としての特質に欠けるもので、泌乳能力は低い。薄めでくっきりとゆるい弓状をしているものが好ましい。

腿 腿とは後肘の飛節より上の部分であるが、外腿はよく充実して強く、内蔵は肉うすく広い股間を形成しているものがよい。こういう腿は大きな乳房を容れることが出来る。内腿の厚いものは乳房を圧迫して、前に押し出し泌乳能力が低くなる。

肢蹄 四肢の長さは体の深さとつりあいよく、肢勢正しく、関節よく緊り、輪郭鮮明で、筋腱堅実であって蹄の質よく形良く、歩様確実なものがよい。関

節や筋腱が軟弱で肢勢の悪いものは、体の均衡がくずれ、体重の負担がかたより、病気になるやすく、又不必要な体力の消耗によって、泌乳能力も悪くなる。

前肢は頭部及び中軀の大部分を支えているから、後肢より負担が重い。前肢は前から見て、肩の巾に垂直に立ち、二肢が平行しているもの、又側方から見ても垂直に立っているものがよい、両肢間の狭いもの、蹄の外向きのものは、不良肢勢である。又狭踏のものは胸を圧迫して、内蔵に悪影響を及ぼす。

後肢は中軀及び後軀を支えている。側方から見て、坐骨、飛節、繫骨のそれぞれの後端を結ぶ線が垂直であるもの、後方から見てほぼ垂直で、下方やや開き股間の広いものが良い、中軀の後部と後軀には、腸、腎臓、子宮、乳房等の臓器がある。又それ等の重量も大きいので、肢勢の正、不正はそれ等の臓器に影響するところが大きい。飛節は大体145度位の角度のものが良く、真直ぐな飛節や角度の小さい飛節、又両肢の飛節が寄ってX字形をしているものは不良である。

蹄は質ち密、堅固で、形のよい椀形で底面水平で、左右の蹄は均等の大きさのものがよく、真直ぐに前方に向いているものがよい。形の悪いもの方向の外向のものは、体重の負担がかたより、蹄も片ちびりをして、姿勢を崩す、質の悪いものは腐爛しやすく、蹄又腐爛をおこし、泌乳能力に悪影響を及ぼす。

乳 器

乳房の質 乳房のひふは淡桃色で、軟い絹のような短い毛が、うすく生えていて、ひふの表面の静脈がよく浮いているもの、更に触ってみてひふはうすく、柔軟で弾力があり、ゆとりのあるものがよい。粗毛や剛毛が密生し、静脈はあらわれず、ひふは固く弾力もゆとりもないものは、泌乳能力が悪い。乳房の実質はおおして又掴んで見て、柔らかい弾力のあるものは、乳腺組織の発達したよい質である。堅い感じで弾力の少ないものは、結蹄組織の多い肉質乳房で、乳腺組織少なく泌乳能力の低い乳房であ

る。又搾乳前はよく張って容積の大きい乳房で、搾乳後はよく収縮して小さくなる乳房は、乳腺細胞の多いよい質である。搾乳前後で余り容積の差のない乳房は、肉質乳房で能力の低いものである。

乳房の付着 乳房は長く、広く、強く尻の下面に付着して、くびれがあってはならない。これは尻長と隆、坐骨の中とに大きな関連がある。前の付着は腰角の前部より下した垂線より前方に延びていて、後の付着はそけい部の下に高く広く付着してくぼみのないものがよい。巾は下臍部との間にすき間なく付着しているものがよい。

形状容積 乳房の左右前後の四区は、均等の大きさで、つりあい良く、前後の区画に溝がなく、左右の乳区の溝も浅く、底面ほとんど水平であるものがよい形状である。容積は大きい程良いものであるが、底が飛節の線より下がるものは良くない。飛節より下り付着の弱いものは、垂乳房となり、起臥の際に乳房や乳頭を、後肢で踏んで負傷することがある。将来酪農経営が多頭化するにつれ、搾乳機が普及し、ますます四乳区均等の大きさの乳房が要求されるので、これに向って改良を進めねばならない。

乳頭 質よく柔かで弾力あり、形は円筒状で搾乳し易い太さと長さ、即ち直径3cm位、握って4指がかかる8、9cm位の長さが、ほどよい大きさである。付き方は乳頭と乳房のひふとの境界が分明で、前後左右の間隔広く、方形に付着配列し、垂直に下っているものがよい。細いもの、短いもの、太いものは搾り難く、太く長いものは、乳頭の形状が崩れやすい、又長すぎるものは、劣端を後肢で踏み負傷することがある。

乳静脈 腹下静脈と乳房静脈との2つを対象とする。乳を生産する為には多量の血液が必要であり、その血液が心臓へ還流する為には、太い静脈が必要となるので、腹下静脈は太いことが第一で、長くて屈曲分岐していて、多くの大きな乳窩に入るものがよい。乳房静脈は乳房面上に、鮮明に網状に表われているものがよく、こういうものは乳房の質も良いものである。

腹下静脈が細く屈曲も少なく乳窩も少なく、乳房

静脈がよく表われていないものは、泌乳能力低く、経産牛では過去の能力も低いものである。然し腹下静脈が顕著でなくとも、腹の真中の臍へ入る太い静脈がある、又乳房より後大静脈へ復帰する血液もあるので、中には腹下静脈太くなくとも能力の高い牛もあるのでよく触診して調べる必要がある。

以上乳牛の見方について述べたが、これは筆者の経験と私見によるもので、酪農家が乳牛を選定される場合、御参考の一助となれば幸甚である。なお乳牛は日々改良されつつあるし、又見解の間違いもあると思われるので、大方諸賢の御叱正をお願いする。